

「若者還流・定着推進事業」について

1 経過

現行の益田市版「ツナガル」事業については、県内高校卒業生とのつながり創出モデル事業（県事業）の一つのとして実施しており、県内 6 市町において取組を行っている。

同モデル事業については、令和 4 年度～令和 7 年度の 4 年間の予定であったが、財源としていたデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業「高校を核とした人づくり・人の流れづくりプロジェクト」（県内 17 市町を含めた 91 自治体が参画）が令和 6 年度末に終了。

このことに伴い、県は、上記の県モデル事業については令和 6 年度末をもって終了し、令和 7 年度以降は新たに「人材の還流・定着」をテーマに県内就職者数の増加や若者 U ターン者数の増加を目指した事業として「県内高校卒業生還流促進事業（仮）」を新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用し、県内市町村と連携して実施することとした考えが示されたことから、本市においても現行の益田市版「ツナガル」事業の後継事業として、令和 7 年度から**若者還流・定着推進事業**を実施することを検討している。

2 事業概要

令和 4 年度から実施している益田市版「ツナガル」事業で構築した市内高校卒業生等とのつながりを最大限活かし、出身学生の市内就職の促進に向けて、市内高校を卒業した若者の還流・定着を図る。

また、下記の実施方法を通じて地元を想い、その魅力に触れる機会を創出する。

3 取組内容

（1）LINE を活用した情報発信事業

令和 4 年度から市出身学生等とつながり、地元情報を発信してきたが、今後は、これまでのネットワークを活かしつつ、保護者世代にも登録を促し、市内のイベント情報や企業情報等を伝える。

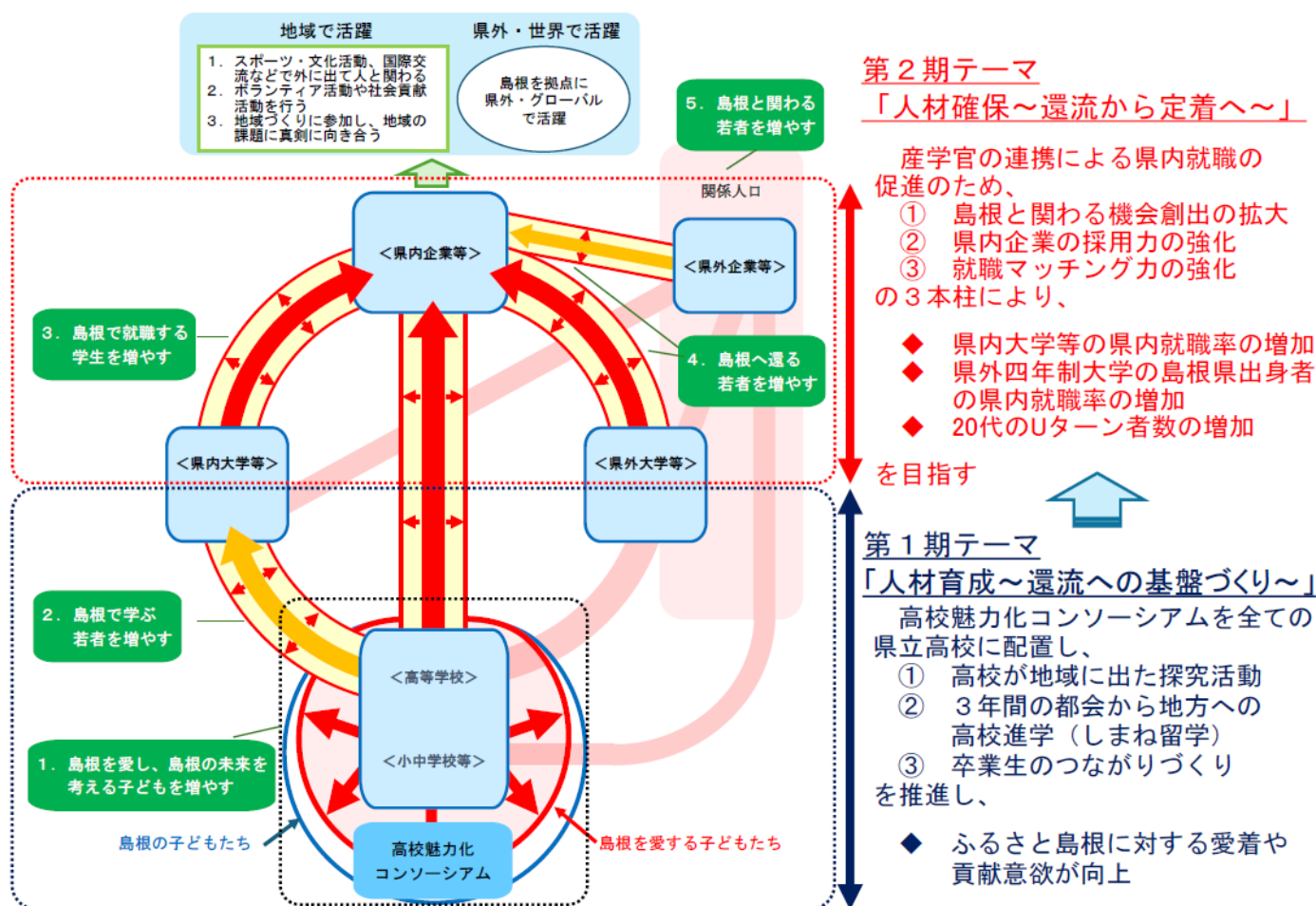
（2）地元体験プログラム構築事業

長期休暇等に市出身学生等が地元で体験できるプログラムを構築する。

（3）採用力向上支援事業

市内企業が行っている採用活動に対して、困りごと相談や課題解決に向けたアドバイス等の個別支援を行う。

産学官で連携した島根を創る人づくりプロジェクト～育成・還流・定着～



各テーマに紐づく取組例とKPI案

①島根と関わる機会創出の拡大

島根と関わりたい・関わり続けたい若者を増やす

【想定される取組例】

- しまね登録の促進（保護者活用、友人活用）
- 首都圏・関西圏での県出身者同士のコミュニティづくり
- 首都圏・関西圏での卒業生還流プランナーの配置
- 出身地域との継続的な関わりを創出しようとする市町村を支援（人件費＋活動費等）

【KPI案】

- ◆しまね登録者数（セグメント発信可能者数）

②県内企業の採用力の強化

県内企業の魅力を高め、島根で就職したい若者を増やす

【想定される取組例】

- 企業の採用活動の改善を支援する専門家を派遣
- 企業が取り組む魅力あるインターンシップ等の実施を支援
- 採用ブランディングに取り組む企業を支援
- 県内企業の採用力を強化しようとする市町村を支援（人件費＋活動費等）

【KPI案】

- ◆インターンシップ等の魅力向上に取り組んだ企業が実施するインターンシップ等への参加学生数

③就職マッチング力の強化

島根へ還り就職を実現する若者を増やす

【想定される取組例】

- 無料職業紹介システムの機能拡張（AIマッチング機能を装備）
- 首都圏・関西圏で県出身者と県内企業を結び付ける就職イベントを開催
- 保護者向けに就職情報を発信
- 県出身者の地元企業への就職促進に取り組む市町村を支援（人件費＋活動費等）

【KPI案】

- ◆無料職業紹介システムを介した県内就職者数

【KGI案】（総合的なアウトカム指標）

- ◆県内大学等の県内就職率
- ◆県外四年制大学の島根県出身者の県内就職率
- ◆20代のUターン者数

令和7年度からの益田市の具体的な取組 「若者還流・定着推進事業」

① 島根と関わる機会創出の拡大

県外に進学した市内高校卒業生とのつながりを目的とした、情報発信体制の構築、強化 など

• LINEを活用した情報発信

公式LINE「ますだより」で繋がっている市出身者、保護者等に就職に関連する情報を発信！

- ◆保護者世帯にも登録促進
- ◆イベント情報以外に市内の就職につながる情報を発信

• 地元体験プログラム構築

長期休暇時に地元開催イベント等に参加してもらうプログラムを構築！

② 県内企業の採用力の強化

市内企業の魅力向上や選ばれる企業づくりを目的とした市内企業のインターンシップ制度の導入支援 など

• 採用力向上支援

市内企業が行っている採用活動に対して、各企業の課題や困りごと相談、解決に向けたアドバイス等の個別支援を行う。

(現行) 益田市版「ツナガル」事業と (後継事業) 「若者還流・定着推進事業」の比較

現行：益田市版「ツナガル」事業	
①オンラインでつながる事業	益田市出身者をつながりを作り、SNS (LINE 公式アカウント「ますだより」) を活用したコミュニケーションづくりと、SNS を活用したコミュニケーションづくり、益田市を楽しむイベント・催し物等の情報発信、益田暮らしを楽しむ人のリアルな暮らしづくりの紹介、おたすけ情報 (交通費補助等) の発信
②ひとづくりでつながる (つながり続ける) 事業	益田版インタレンシブ (就業体験・ライフキャリア体験) プログラムの作成支援、インタレンシブの運営支援 (集客・広報・運営・伴走サポート)
③東京・大阪拠点でつながる事業	市出身者を対象とした交流事業、U・I ターン者相談事業、就労支援事業 (ジョブカフェ)、参加者へのアンケート調査 (実施・分析・報告・推進化に向けた提案)



後継：若者還流・定着推進事業	
①LINE を活用した情報発信事業【拡充】	公式LINE「ますだより」で繋がっている市出身者、そして新たに保護者等にも登録の幅を広げるとともに就職に関連する情報を発信。
②地元体験プログラム【拡充】	長期休暇時に地元開催イベント等に参加してもらうプログラムを構築。
③【新規】採用力向上支援事業	市内企業が行っている採用活動に対して、困りごと相談や課題解決に向けたアドバイス等の個別支援を行う。

県配置の「卒業生還流プランナー事業」を活用

市出身学生の実数が少ないことや拠点近くに住む学生も限られたことから、事業の発展が困難となっていた。
 今後は、令和7年度から県が配置を予定している首都圏・関西圏での卒業生還流プランナーに情報提供を行い、連携を図りながら対応していく。